

令和 7 年度

# 運営に関する計画

中間評価



大阪市立大東小学校

令和 7 年 10 月

## 1 学校運営の中期目標

## 現状と課題

- 生活指導面
  - 児童の中に「きまりは守らなければいけない」「自分にはいいところがあるんだ」という意識が浸透し始めているが、令和 6 年度小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対する肯定的回答の割合は、92.0%で前年度より 1.8 ポイント向上しているが、目標の 93%には到達しなかった。
  - ポジティブ行動支援を進め、児童の自己肯定感の向上に取り組んできたが、令和 6 年度小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童は 83.0%と明らかな向上は見られなかった。児童の自己肯定感や自己有用感を高めつつ、互いに尊重し合える人間関係を築く指導を継続してかなければならない。
- 学力・体力面
  - 学力においては、令和 6 年度小学校学力経年調査における国語及び算数の平均正答率の対全国比は以下の通りとなっており、改善傾向にあるものの、「主体的・対話的で深い学び」に向けた実践を継続していく必要がある。

3年	4年	5年	6年
国語	算数	国語	算数
98.1	99.7	101.4	100.6
102.0	100.9	98.6	103.7

  - 体力向上については、令和 6 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、「運動やスポーツをすることは好きですか」に対し、肯定的回答が男子で 88.9%（市は 93.4%）、女子で 82.2%（市は 84.5%）といずれも低くなっている。引き続き運動意欲と体力の向上を図る教科指導や体育的行事等の充実を図っていかなければならない。
- その他
  - 一人一台端末の活用については、児童の興味・関心は高まっているものの、「心の天気」の入力を徹底するなど、当たり前に使うことのできるような習慣化が必要である。

## 中期目標

## 【安全・安心な教育の推進】

- 令和 7 年度末の学力経年調査の「学校に行くのが楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。（R3 78.1%）
- 令和 7 年度末の学力経年調査の「自分にはよいところがあると思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。（R3 70.1%）

## 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 7 年度末の校内調査で主体的な学びにかかる質問の項目について肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。（R3 83%）
- 令和 7 年度末の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において合計得点を令和 3 年度より向上させる。（R3 男子 54.6 ポイント 女子 54.8 ポイント）

## 【学びを支える教育環境の充実】

- 令和 7 年度末の校内調査で「日々の学校生活の中で学習者用端末を活用している」に対して毎日と回答する児童の割合を 90%以上にする。（R3 78.0% ただし毎日使っているかどうか尋ねていない。）
- 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 90%以上にする。
- 令和 7 年度末の小学校学力経年調査・校内調査の「読書は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。（R3 78.0%）

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 93%以上にする。(R06 : 92. 0%)
- 学校生活アンケートにおいて、「学校のきまりを守っていますか」に対し、肯定的に回答する児童の割合を 98%以上にする。(R06 : 96. 9%)
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を 84%以上にする。(R06 : 83. 0%)
- 学校生活アンケートにおいて、「自分にも友だちにもいいところがありますか」に対し、最も肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。(R06 : 86. 0%)

### 【学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年においても前年度より 0.5 ポイント向上させる。(R06 : 3 年 98. 1、4 年 101. 4、5 年 102. 0)
- 本校独自実施の 1・2 年全国テストにおける、国語の平均正答率の対全国比を、1 年は 100. 0 以上にし、2 年は 1 年次 (94. 7) と経年比較し 0.5 ポイント以上向上させる。
- 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、3 年は 100. 0 以上にする。
- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることはできていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 43%以上にする。(R06 : 39. 0% [3 年 42. 9%、4 年 43. 1%、5 年 45. 5%、6 年 24. 5%])
- 学校生活アンケートにおいて、「みんなの力で考え、調べ、話し合ったりしながら授業を進めていますか」に対し、最も肯定的に回答する児童の割合を 60%以上にする。(R06 : 58. 4%)
- 学校生活アンケートにおいて、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対し、肯定的に回答する児童の割合を 65%以上にする。(R06 : 61. 8%)

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く）(R06 : 20. 2%)
- 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 65%以上にする。(R06 : 60. 0%)

※ 基準 1 : 「1 か月の時間外勤務が 45 時間を超えない」かつ「1 年間の時間外勤務が 360 時間を超えない」

## 3 本年度の自己評価結果の総括

## (様式2)

## 大阪市立大東小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を93%以上にする。(R06: 92.0%)</li> <li>■ 学校生活アンケートにおいて、「学校のきまりを守っていますか」に対し、肯定的に回答する児童の割合を98%以上にする。(R06: 96.9%)</li> <li>● 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84%以上にする。(R06: 83.0%)</li> <li>■ 学校生活アンケートにおいて、「自分にも友だちにもいいところがありますか」に対し、最も肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。(R06: 86.0%)</li> </ul>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向番号1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ きまりを守り、安心して楽しい学校生活が送れるよう、児童の道徳心や人権感覚を醸成する取組を実施する。</li> </ul> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 「学校のきまり」のあいさつに着目し、学期毎に児童会活動や登校班のあいさつ運動に取り組み、児童がきまりを守れるように意識の向上に取り組む。</li> <li>➤ 教室に「学校のきまり」を掲示し、きまりを守れているか学期毎に振り返りを行い、できていることを称賛しつつ、以降の学校生活に活かせるようにする。</li> </ul>	C
<p>取組内容② 【基本的な方向番号2、豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「エビデンスベースの学校改革」導入校として、「ポジティブ行動支援(PBS)」に取り組むことで、児童が自己肯定感を高め、自分や相手を認めるとのできる集団を育成するとともに、落ち着いた学習環境の定着を図る。</li> </ul> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 「エビデンスベースの学校改革」導入校の研修会等に年3回以上参加してPBSの取組についての知見を得るとともに、校内伝達研修を行う。</li> <li>➤ 各学年で実態に合わせたPBSの取組を行い、毎月の職員会議に合わせて実施状況や児童の様子等について共有し、学校全体の取組に活かす。</li> </ul>	C

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>① 指標となる学力経年調査はまだ実施されていない。1学期末に実施した第1回学校評価アンケートにおいて、「学校のきまりを守っていますか」の質問に対して肯定的に回答した児童の割合は約94.6%で、目標の98%に届かず、昨年度実績を下回った。「学校にきまり」のあいさつについては、登校班でのあいさつ週間や児童会活動の「あいさつの木」に取り組んだ。その結果、あいさつを自分からしようとする児童は増えつ</p>

つある。一方、「学校のきまりを守る」意識は、高まってはいなかった。

- ② 指標となる学力経年調査はまだ実施されていない。第1回学校評価アンケートにおいて、「自分にも友だちにもいいところがありますか」の質問に対して最も肯定的に回答した児童の割合は約82.6%と目標を下回った。授業研究会に合わせて大学教授を招聘(6/4)し、「ポジティブ行動支援(PBS)」についての教職員の理解を深めた。また、PBS推進担当が「エビデンスベースの学校改革」導入校の研修会等に4回(5/15、6/10、7/29、8/4)参加し、後期に伝達研修を実施する予定である。

#### 後期への改善点

- ① 児童が「学校のきまりを守る」意識を高めるために、朝会当番が一週間で「学校のきまり」の中で、児童ができている項目やよかつた項目を全校朝会で発表し、児童の規範意識を高めていく。
- ② 児童の望ましい行動を明確にするために、月1回児童の良かったところやがんばったところを教職員で共有するとともに、児童朝会等でも児童に伝える。また、伝達研修とマトリクスを作成するための研修を計画的に実施する。

(様式2)

## 大阪市立大東小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年においても前年度より0.5ポイント向上させる。(R06: 3年98.1、4年101.4、5年102.0)</li> <li>■ 本校独自実施の1・2年全国テストにおける、国語の平均正答率の対全国比を、1年は100.0以上にし、2年は1年次(94.7)と経年比較し0.5ポイント以上向上させる。</li> <li>■ 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、3年は100.0以上にする。</li> <li>● 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることはできていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を43%以上にする。(R06: 39.0%[3年42.9%、4年43.1%、5年45.5%、6年24.5%])</li> <li>■ 学校生活アンケートにおいて、「みんなの力で考え、調べ、話し合ったりしながら授業を進めていますか」に対し、最も肯定的に回答する児童の割合を60%以上にする。(R06: 58.4%)</li> <li>■ 学校生活アンケートにおいて、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対し、肯定的に回答する児童の割合を65%以上にする。(R06: 61.8%)</li> </ul>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基礎・基本の定着と個別最適化を念頭に、国語科の学習指導を充実させる。</li> </ul> <hr/> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 有識者を招聘し、国語科の指導力向上に向けた校内研修会を年2回以上実施する。</li> <li>➤ スキルタイムや家庭学習等を活用して、週1回以上国語のデジタルドリルに取り組ませる。</li> </ul>	<b>C</b>
<p><b>取組内容②【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「主体的・対話的で深い学び」の推進、言語力・読解力・コミュニケーション能力の育成に向け、授業力の向上を図る。</li> </ul> <hr/> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 「主体的・対話的で深い学び」に係る伝達研修や実践報告を、各学年を主体として、年6回以上実施する。</li> </ul>	<b>B</b>

### 取組内容③【基本的な方向番号8、健やかな体の育成】

- 「ポジティブ行動支援（PBS）」のアプローチを活かした体育科の授業研究を進め、運動やスポーツにおける有能感や達成感を味わわせながら、児童の運動意欲の向上を図る。
- 体を動かす楽しさや素晴らしさを感じられるような体育的行事・取組を実施する。

#### 指標

- 体育科において、児童の有能感や達成感の向上を目指す授業を進めるため、大学教授を講師として招聘し、授業研究会を年3回以上実施する。
- 年3回以上の出前授業や特別授業により、多様な運動・スポーツと出会う機会を設けるとともに、従来の体育的行事においても「体を動かす楽しさ」を視点としてプログラムや実施方法の改善を実施する。

B

#### 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 指標となる学力経年調査および1・2年全国テスト（本校独自）はまだ実施されていない。大学教授を講師に招聘し、国語科の授業力向上研修を8/20に実施した。個別最適な学びと協働的な学びについて理解を深めることができた。11/19にも第2回の研修を予定している。国語科のデジタルドリルの活用については、取組を行っているが、各学級によって問題数に差がある。どの学年も、基本的に週1回以上取り組んでいるが、国語以外の教科を学習している児童もいる。指導者が十分に意識できていないことが原因であると考えられる。
- ② 指標となる学力経年調査はまだ実施されていない。第1回学校評価アンケートにおいて、「みんなの力で考え、調べ、話し合ったりしながら授業を進めていますか」の質問に対して最も肯定的に回答した児童の割合は約57.4%で、目標の60%を下回る結果であった。「主体的・対話的で深い学び」に係る伝達研修・実践報告については、これまでに3回（7/24：算数・理科、9/24：キャンバ、9/30：パラスポーツ）を実施している。今後も5回程度計画をしている。
- ③ 第1回学校評価アンケートにおいて、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の質問に対して肯定的に回答する児童は約86.8%で、65%の目標を上回る割合となった。体育科授業研究会は、6/4に実施し大学教授から指導講評を得た。今後10/1と11/17に実施予定である。多様な運動・スポーツと出会う機会として、これまでに6回の出前授業（4/24：跳運動、6/10：テコンドー、7/1：水泳、9/9：ティーボール、9/11：走運動、9/12：バレーボール）を実施している。体育的行事の改善については、体を動かす楽しさの視点から、低学年も楽しめる出前授業や6年生のスポーツ交歓会などを予定している。

#### 後期への改善点

- ① 第2回の研修は、物語文の読みを深める指導について研修を行う。教員が、指導力を向上できるような研修にしていく。毎週金曜日の朝の時間は「国語科のデジタルドリルをする」時間として、必ず取り組ませるようにする。できなかったときは、週1回以上、スキルタイム等の時間を活用して、取り組ませる。放送委員会の児童に、朝の放送時に呼び掛けてもらい、児童たちにも意識付けをさせていく。また、家庭学習で取り組ませる時も、単元を指定して取り組ませるなどして、児童の学習状況を教員が必ず確認するようにする。
- ② 自分の意見を伝えたり、理由を説明したり、意見の妥当性について考えたりするな

ど、学年の発達段階に応じて、ペアやグループで話し合う活動を教科を問わず増やしていくとともに、ハンドサイン等を使って、積極的・意欲的に授業に参加できるようする。

- ③ 運動会では、コロナ禍で中止になっていた団体競技を実施することにした。大縄8の字週間も、12月の上旬に実施を計画している。1月下旬のマラソン大会では、今年度は1年生から3年生も淀川河川敷で行う予定である。

(様式2)

## 大阪市立大東小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く）（R06：20.2%）</li> <li>第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を65%以上にする。（R06：60.0%） ※ 基準1：「1か月の時間外勤務が45時間を超えない」かつ「1年間の時間外勤務が360時間を超えない」</li> </ul>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向番号6、教育DXの推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童が、学習者用端末を日々の学校生活の中で日常的に使うことができるよう、使用場面や使用方法の工夫を図る。</li> <li>学習者用端末をスムーズに使用することができるよう、児童の発達段階に合わせて必要なスキルを身に付けさせる。</li> </ul>	
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「心の天気」の入力を朝のルーティンとして実施する。生活指導部と連携し、登校後に児童が行うことを発達段階に応じて定める。</li> <li>スキルタイムにおいて、情報活用能力（タイピング等）を月3回以上実施するとともに、学年に応じた「情報活用能力到達目標」を設定し、児童の情報活用能力の向上を図る。</li> </ul>	<b>B</b>
<p><b>取組内容②【基本的な方向番号7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員のワーク・ライフ・バランスの調和と「働きがい」の醸成を進めるべく、教材研究や児童と関わる時間を確保する。</li> </ul>	
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全学年で「教科担任制」を導入し、児童一人ひとりを多面的に評価・指導・支援するとともに、教員が授業準備する教科をしづらることで、教材研究に充てる時間の確保と児童にとってより充実した授業の実施を目指す。</li> <li>学校行事（4時間授業等）を除く、「5時間授業日」を年間15日以上設定する。（R06：11日）</li> </ul>	<b>B</b>

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>① 授業日における「児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数」の月間達成率は、5～8月（4月は端末準備期間）で平均83.2%と目標の50%を大きく上回っている。「心の天気」の入力については、全学級が朝のルーティンとして入力ができている。朝に入力ができない児童に対しても昼までに声掛けを行い、ほとんどの児童が入力できている。端末操作スキルを身に付けさせるために、「情報活用能力到達目標」を</p>

設定した。スキルタイムにおける実施状況については、全学級で月3回の指標は達成できている。この時間以外の隙間時間にも取り組んでいる学級もある。情報活用能力に関する児童アンケートでも、技能面に関する内容について肯定的な回答が約77.9%、情報モラルに関する内容について肯定的な回答が約90.6%となった。内容を分析したところ、技能面では主にクラウドに関係する技能について肯定的回答が低い傾向であった。情報モラルに関しては、回答結果が児童の実態と結びついていないようと思われる。

- ② 勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合は、4～8月で平均92.0%と目標の65%を大きく上回っている。発達段階に合わせて全学年で「教科担任制」を導入し、教材研究や児童にかかる時間の創出を図っている。ちなみに、第1回学校評価アンケートにおいて、「これまでの『担任がすべての授業を教える授業』より『教科によって先生が変わって教える授業』の方がわかりやすいと思いますか」と「教科ごとに先生が変わることで、担任の先生以外に相談できる先生が増えたと思いますか」の質問に対して肯定的に回答した児童の割合は、それぞれ約79.1%および約77.5%といずれも高い値であった。「5時間授業日」については、年度当初から積極的に設定しており、9月末までに8日実施することができている。

#### 後期への改善点

- ① 授業日における「児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数」の月間達成率については、継続して取り組み、この達成率を維持していきたい。情報活用能力の育成に関しては、肯定的回答の割合が低い項目（Teamsを使用してファイルを共有する等）の能力を向上させるような取り組みを行っていく。情報モラルに関しては、回答と実態が結びつくように、継続して情報モラルの大切さについて児童に指導していく。
- ② 後期も「5時間授業日」を計画的に設定するとともに、業務の効率化やカリキュラムマネジメントを進めていく。

